

— 700号記念特集 —

ご挨拶

鹿児島市医報通巻700号によせて ～感謝を込めて～



鹿児島市医師会 会長 上ノ町 仁

な評価をされているか・・・より良い評価をいただけるよう、先生方と大いに「議」を交わし、「和」をもって医師会の運営に一生懸命取り組んでいきたいと思います。

また、心のオアシス的なコーナーとして、自由に投稿できる「随筆・その他」や「鹿市医郷壇」があります。ユーモア溢れる随筆や旅行記、時宜を得て思わずにっこりしてしまう郷句など、先生方のお人柄が随所にちりばめられた作品に出会えたことが、至福の喜びであります。これからもご寄稿のほどよろしくお願ひいたします。

最後になりますが、ここに歴代の編集委員長のお名前を列挙し、重ねてご寄稿いただいた先生方、編集委員、職員の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。歴代の編集委員長であられる島本 保先生、武田二郎先生、永吉 浩先生、沖野秀一郎先生、小川幸男先生、石塚元徳先生、内宮禮一郎先生、服部行麗先生、伊東祐久先生、有村敏明先生、福元弘和先生、宇根文穂先生、上ノ町 仁、そして長友医繼先生、本当にありがとうございました。それぞれの時代を表現してきた脈々と繋がる医報の歴史を振り返り、感謝とそして未来へのさらなる発展を祈念致しましてご挨拶とさせていただきます。

鹿児島市医報通巻700号の発行を迎えまして、一言ご挨拶を申し上げます。鹿児島市医報は、昭和37年3月に第1号が発行されて以来滞りなく先生方のお手元にお届けすることができ、今回の700号に至っております。これまでご寄稿いただきました鹿児島市医師会会員の先生方、そして歴代の編集委員長をはじめとする編集委員および担当職員の皆様の一方ならぬご努力に対し、心より感謝と敬意を表します。

医報は、その時々の鹿児島市医師会の状況・情報を的確にお伝えする媒体であり、その意義は目の前にある課題に対し当時の執行部が何を考えどう判断しどう動いたか、そしてそれに対する会員の評価はどうであったかを公に残すことにあります。その役割は過去・現在・未来においても何ら変わることはできません。

ここ数年の鹿児島市医師会における大きな話題は、共同利用施設である医師会病院の現状や、臨床検査センターの状況でしょうか。将来の執行部や先生方が、現在の医報を眺めて共同利用施設への我々の舵取りに対しどん